



～つながりの中で育つ、べふっこの一 年～

あけましておめでとうございます。

令和8年(2026年)の新しい年が、子どもたちの元気な声とともにスタートしました。年末年始をご家庭でどのように過ごされたでしょうか。久しぶりにゆっくりと家族で過ごす時間の中で、子どもたち一人ひとりが心と体を整え、新しい一年への力を蓄えてくれていればと願っています。



本校では「誰もが楽しく幸せに過ごせる学校」「すべての子どもに居場所がある学校づくり」を教育目標に掲げ、日々の教育活動を進めてきました。二学期には、授業の中で友だちと対話しながら学ぶ姿、休み時間に安心して過ごす姿、そして児童会を中心に学校生活をよりよくしようと自分たちで考え、行動する姿が、学校のあちこちで見られるようになりました。

特に、「朝プロジェクト」による登校後の落ち着いた時間の広がりや、子どもたちの発案による取組は、「学校は大人がつくるもの」から「子どもたち自身がつくっていくもの」へと、確かな一步を踏み出していることを感じさせてくれました。

新しい年を迎えるにあたり、校長として改めて大切にしたいことは、「子どもが主役の学校づくり」をさらに進めていくことです。「やってみたい」「こうしたらもっとよくなる」——そんな子どもたちの声を学校全体で受け止め、形にしていく。その積み重ねが、子どもたちの自己肯定感や主体性につながっていくと信じています。

さて、この場を借りてお知らせしたい内容がございます。それは、別府小学校学校運営協議会が昨年11月末に立ち上げた「べふっこ未来基金」についてです。「学校の中に子どももおとなもほっとする場所をつくりたい」という思いで実施した、視聴覚室の環境整備を目的としたクラウドファンディング(募金)には、オンラインでのご支援に加え、学校まで直接お気持ちを届けてくださった方も合わせ、目標としていた60万円を大きく超える、約72万円のご支援が集まりました。

この結果は、金額以上に大きな意味を持っています。保護者の皆様、地域の皆様、そして卒業生の皆様など、多くの方々が「別府小の子どもたちのために」という思いを寄せてくださった証です。学校が地域とともにある存在であることを、改めて実感する機会となりました。心より感謝申し上げます。いただいたご支援は、子どもたちが安心して集い、学び、語り合える場づくりのために、そして地域の方々とも交流できる場となるよう大切に活用してまいります。また、その場を「使ってもらう」だけでなく、「どう使いたいか」を子どもたち自身が考えていくような取組へとつなげていきたいと考えています。

本年も、保護者・地域の皆様と手を携えながら、一人ひとりの子どもが「ここにいていい」「自分らしくいていい」と感じられる学校づくりを進めてまいります。子どもたちにとって、そして別府小学校に関わるすべての皆様にとって、実り多き一年となりますよう取り組んでまいります。

本年もどうぞよろしくお願ひいたします。